

目的 最近、①設備等の発達で洗濯機をどこにでもおけるようになったこと、②浴室を寝室圏におくプランの普及（洗濯機を家事圏に残す）③化粧室的な雰囲気ですつらえるなど、洗面脱衣室を居住室的にとらえる住要求、住意識の変化等によって、洗濯機を洗面脱衣室に置いてきた従来のやり方に対し、プランの中でそれ以外に配置させるあり方を再検討する必要がでてきた。洗濯機の配置形式として、従来の①「洗面脱衣室」に対し②「台所」③「家事室（ユーティリティ）」の2形式が主要な型としてありうる。特に台所に置く形式は、現在までのところ一般的には用いられてこなかった。これは、欧米では一般的な形式であるけれども、この形式が日本の住宅にも受け入れられるのかどうか検討することが目的の一つである。

方法 各形式ごとに対象を選定し、近畿圏（阪神、北摂、京阪、阪奈間）の総20地区の住宅を対象に質問紙調査及び聴き取り調査した。有効回収数は「洗面脱衣室に置く型」158戸、「台所に置く型」戸建て住宅51戸・マンション101戸、「家事室に置く型」37戸である。調査時期は1981年11～12月、1982年11月。

結果 (1)居住者の洗面脱衣室観は居住室的志向が強い。(2)「台所に洗濯機を置く型」の検討：①この型に対する居住者の満足度は、半数が満足しており、一応受け入れられている。しかし考慮すべき点はいくつか指摘される。②この型の利点 「台所仕事をしながら洗濯機のめんどろがみれる」が第1位にあがる。洗濯機の自動化が進んであまり手間がかからなくなったとはいえ、主要な2つの家事作業がまとめられたメリットは大きいようである。③「台所に置く型」の不便な点・問題点 1.洗濯機が浴室から離れたことによって「残り湯利用の不便」「下洗い・手洗いに不便」「よごれ物を脱衣室から運ぶ不便」がある。2.台所に洗濯機を持ち込んだことによって、「台所の油物等で洗濯物が汚れる心配」「台所でよごれ物をあつかうのは感覚的にいや」という特に、調理内容・習慣の違う日本の台所に洗濯という作業をもち込むことの矛盾点がうかがわれた。台所設備に組みこんでオープンに続けるよりも、洗濯スペースは空間的に区切りをつける方が望ましい。台所に洗濯機を持ち込む限りDK型はまずく、K独立が前提となる。

(2)「家事室に置く型」：この型の満足度はきわめて高くこの型以外の居住者の志向もこの型に向いている。